

「団地における孤立死防止の取り組みに関するシンポジウム」

質問への回答

【質問 1】 今後の民生委員の在りかたとして有償にしたほうが良いと思いますか。

- ◆回答（高橋）：現行の民生委員制度そのものが、制度疲労。戦後60年以上経過しても抜本改革なし。有償・無償といった問題ではない。任命権者が厚労大臣であることから改革すべし。民生委員の情報量も時にはケアマネ以下。制度そのものを全面見直しすべき時期に来ているにも拘らず怠っているのは政治の怠慢と言うべき。
- ◆回答（廣瀬）：有償とするための根拠がはっきりしないように思います。有償にするという提案は民生委員からは出てはいませんが、有償にすれば、民生委員の担い手が増えるとは言い切れないのでは…。私は無償の民生委員活動を支持します。

【質問 2】 地域包括ケアシステムを作るうえで中心となるのは民間ですか、役所ですか。

- ◆回答（高橋）：民とか官とか言うべき問題ではなく協働が本来の姿では……。一般論として最初の口利きは、官が担い滑り出したら民が主導権を担うケースに成功例が多いのも事実。
- ◆回答（廣瀬）：板橋では現在、「いたばし総合ボランティアセンター」が中核となって、「いたばしまちの学校」を実施中で、防災の課題、高齢者の課題、これから地域では課題解決のためにどうするのか？の3回シリーズで学習会を、来年度にまたがって18地域センターで開催している最中です。地域での課題解決型社会をつくる上で必要なもの、それが“地域包括ケアシステム”で、介護保険、医療保険だけの制度では立ち行かないところに来ていることに、おおかたの地域住民は気付いています。その“地域包括ケアシステム”に医療関係者、介護事業者、地域住民やボランティアが参画していくシステムを作りたいと、板橋区医師会、並びに関係機関等と連携して協働の歩みを始めたところです。区民の意思をしっかりと反映し、行政、関係機関、民間などが連携し、協働で“地域包括ケアシステム”をつくって行きたいと思います。それには早急な対策が必要で、このシステムを作ることは急務と考えています。今、歩き始めたところですが、手応えを感じています。
- ◆回答（平原）：リードを取るのは地域包括支援センターです。

【質問3】 サロン、声掛け訪問以外に何か特別な取り組みをしていますか。具体的な取り組み内容を教えてください例) 広報誌の配布、戸別訪問と調査、アンケートなど、住民への講座

- ◆回答（高橋）：画一的なものはない。地域・地域によって格差があつて当然。「出来ることから始める。小さく生んで大きく育てる」ことが肝心。知恵を出し合う問題意識。知恵は屋台や一杯飲み屋の立ち飲みからも生まれる。声かけの技術。
- ◆回答（平原）：高齢者支援総合センターではセンター便りの配布・ふれあい訪問の一部代行・ふれあい訪問の二次調査・講座の開催を行っています。

【質問4】 住民主体でおこなったほうが良いと思いますがどうしたら主体となっていくきっかけが作れるでしょうか

- ◆回答（高橋）：ご指摘のように住民主体の方が、成功率の高いことは事実。仲間を作ることが第一歩。最初は、数名で結構。切り口は、趣味でよし、酒でもよし、低いハードルから高いハードルへ。
- ◆回答（平原）：町会・自治会・サロン・防災訓練・お祭りなどあらゆる機会をとらえ折に触れて、地域を守るのは住民だと繰り返しお話しし、意識を高めるように働きかけるが必要だと考えます。

【質問5】 高橋さん、廣瀬さんへ地域の高齢男性（おひとりさま）を家の外へ出すためにどのような方策をとられていますか。なかなか他人と「かかわらない」人に対する見守りはどうされていますか。（足立区坂田）

- ◆回答（高橋）：男の研究から。(笑い) 女性との違いは、プライドの高さ。いつまで経っても過去の地位や役職を引きずっている。女房に先立たれてもプライドが災い「ほっといてくれ、おれのことはおれですよ。誰の世話にもならないよ」強がりから始まるのも男世界の常。意外と効果的なのは、女性が接するより男が接するケース。これも突き詰めれば「男同士」共通の世界観に浸ることが出来ることからかもしれません。
- ◆回答（廣瀬）：非常に困難な問題ですが、私の担当する団地では、サロンの立ち上げ期に「呼び掛け人」の一人として男性たちの名前置きをしました。そうすることで、自分たちがつくったサロンという意識が強くなりサロンの運営スタッフとして留まってくださっています。但し、すでに引きこもりの男性は、毎月サロンのチラシを個別配布してはいるのですが、なかなか…会場でも申し上げましたが、孤立予防に

力点を置くことも重要と考えています。

【質問6】 廣瀬さんへ

「ボランティア休暇の普及啓発」とありますが具体的に対象やおこなっていることをお聞きしたいです。

- ◆回答（廣瀬）：企業にはボランティア休暇が、CSR（企業の社会的責任）として用意されているようです。ただ、年間2～3日という非常に短いものが多く、企業に対しても普及啓発の必要性を感じます。ある企業は1泊でのCSR研修などに使っていると話されました。ただ、私たちは民間のNPOとして「被災地支援」を平成23年4月1日より実施し、多くの若者から高齢者までを被災地に繋いでいます。当初は岩手県陸前高田市での支援を決め、瓦礫撤去、避難所の高齢者支援などを経て、仮設住宅の棚づくりをメインに支援活動を展開し、現在は福島県飯舘村の仮設住宅支援にシフトし、ここでも棚付け作業をボランティアで実施しています。
- 高齢者(80代)から若者まで、多くの意識ある板橋の住民が参加し、被災地に幾度となく足を運んで呉れています。彼らはボランティア休暇のくくりでは無く、自分自身の休暇を使って参加していますので、土・日の活動になっています。企業の方々に呼び掛ける術を持っていないので、今後はCSRとも連携を取りたいと思います。

みなさんへ社協松田さんの言った「団地だからこそつながりかた」について行っていることや考えることがあればお聞きしたいです。

【質問7】 高橋さんへ見守り活動を実施しているなかで印象に残った、または深刻さを見せつけられた実例があれば教えてください。

- ◆回答（高橋）：シンポジウムでもお話したように、深刻なケースは実は多いのです。家庭内孤独と言われる老いた夫婦のケース、例えば無言のままでの食事、TVに向かって会話をしていても夫婦間では無言等々。光が丘でボランティアとして、毎日ゴミ拾いをしていたある男性のケース。最初の1年位は、朝・夕の1時間程でした。自分は、東北から出稼ぎに来て、やっとゆとりが出来たので、「世間に恩返しのためとやっているんだ」と言っていました。処がある時から朝・夕でなく終日となったのです。不思議に思い、ある時夕食に誘い一杯飲む機会を作りました。その結果、実はリストラにあい家族とも離散していること、アパートの一部屋を仲間と共同で借りて生活していること、ゴミ拾いをしている時間は、全ての苦労を忘れ去る絶好の時間であること等々話してくれました。見守りを兼ねての交流を通じ毎日のようにお互いの会話が始まり、掃除用品の提供のみならず、なにげなく食べ物や飲み物の差し入れを始めました。更に3年程してでしょうか。毎日顔を合わせていた彼が次第に顔を見せなくなり、2～3日から1週間、10日と間隔が長くなってきたのです。異変の始まりです。足の動き

も明らかに変わって来てビッコを引いているのです。しかし何を聞いても「大丈夫」の一点張り、最後にはそんなに「俺のこと聞くんだったら、もうここにこないから」と言う始末。更に1か月位でしょうか。公園のベンチにうずくまっている姿を見たのは……。福祉事務所と相談、緊急入院、しかし手当の甲斐もなく、入院中に肉親の居場所も確認し、連絡を取っていただいたようでしたが、結局誰に看取られることもなく亡くなりました。葬儀社の手配に始まり、火葬場での茶毘等全て行政サイドで行っていただきましたが、「骨は宅急便で送って下さい」これが遺族の最後の言葉でした。葬儀社と火葬場のご厚意により茶毘の瞬間とお骨を収納する機会に接したこと、これが彼との永久の別れでした。

【質問 8】 高橋さんへ小冊子の内容について決まっているところがあれば教えてください。

◆回答（高橋）：内容的には、かなり煮詰まって来ております。見守りという表現を極力避け（監視を意味する暗いイメージ）いずれ好むと好まざるとを問わず誰にも訪れるその時……。他人の事ではなく自分自身の問題として捉え、その時の為に今から備えてもらいたい、そんなトーンで全体を捉え

ております。A4版48ページ規模となる予定です。ご希望でしたら、刊行時、連絡先を教えていただければ郵送させていただきます。

【質問 9】 「孤立死」ということで亡くなられた際の葬儀社さんとの連携や対応は。

◆回答（高橋）：一口に「孤立死」と言っても全てケースにより異なります。親族の所在が判っても、質問7の回答のように、悲惨なケースもあります。行政の対応にしても細かい点になると対応は画一的とは言えないようです。日頃から民・官できめ細かい話し合いをしておくことが必要です。

【質問 10】 墨田区のふれあい福祉委員が定期的に訪問する→個人情報との整合性について。

◆回答（平原）：墨田区にはふれあい福祉委員はいないので、他のところでしょうか？みまもり協力員など個人宅に伺う時は、事前に個人情報取り扱いの研修を行い、守秘義務の徹底を図っています。

【質問 11】 サロンの活動により孤立、引きこもり防止をするが関わり合いのしたくない独居の方へのアプローチ・意識づけをどうするか。

◆回答（高橋）：サロンを開設し活動することが、目的となって手段であることを忘れていませんか。何事にも関わりたくない人が、想像以上に多いのが現実です。それは、日本人の多くが無宗教だからです。日頃か

ら教会や礼拝堂・寺院に行く習慣がなくコミュニティーが形成されていないことも原因の一つと言えましょう。女性の多くは、子育てを通して学校という地域社会で交流があり、結婚後もこうした交流は継続する傾向にあります。一方男性は、会社社会で常に上下関係、同期入社はライバル関係、家族や地域での時間よりも会社社会での時間が長く、退職した途端「どうしてよいか判らない」人間なのです。それにプラス、「プライド」の高さが災いしています。的を絞った人に継続してアプローチ、無理に面会・会話しようとせず「手紙」という手段で試みるのも一つの方法ではないでしょうか。

- ◆回答（廣瀬）：私に関わるサロンは今年、10周年を迎えました。10年間、月1度の「サロンのお知らせ」を高齢者190世帯に配布しています。「お知らせで繋がっていたから、今、来れたのよ」という高齢者の言葉があります。お知らせで繋がるという方法もあるのです。サロンのお知らせに、防災訓練の案内をチラシの裏面に刷って配布する、健康福祉センター（保健所）の行事を載せるなど、様々なニュースを届けることも大事では・・・サロンに来るだけがアプローチではないのでは……
- ◆回答（平原）：個人の生き方を変えようと思うと困難さが強くなりますが、孤立させないようなゆるやかな見守りに切り替えて、関わり合いの方法を工夫することと、常に気にかけていることを伝えていくことが重要だと思います。
- ◆回答（相澤）：決定的な「特効薬」はないと思われます。調査からあげられた工夫やヒントをいくつか紹介すると、①粘り強く継続的に訪問・声かけする（私たちはあなたを気にしているというメッセージを送り続ける）、②防災・災害時対応、振り込め詐欺、火災報知機設置などの共有しやすい課題をテコにつながりをつくる、③サロンや自治会などの身近な活動を嫌う方もいるのでテーマ型の活動へのつながりも視野に入れる、④徹底した傾聴活動を継続展開する、⑤活動への参加を促す場合は役割を担ってもらう（写真が趣味の方だったら写真撮影を依頼したり、写真で記録を取ってもらうことをお願いしたりなど・・・）、⑥イベントを定期的に行い、お食事無料券や招待券を配る（グループの輪に入れない方が多いので茶話会ではなく映画上映会などが気楽に来れるらしい）、⑦ピアサポーター的な人によるピアなかかわり（同様の状況を経験した人が、同じ目線でサポートしていく）、⑧電話やメールなどを使ったつながりを模索する（将来的な取り組みかもしれません）、などがあげられました。

【質問 12】高齢者の独り暮らし、また高齢者のみの世帯が急増し、そのために孤立化が問題になっておりますが、家族と同居しているが家のなかで居場所がない、またそういう家庭にはなかなか行政の手が入らないことを懸念しています。おせつ

かいのまちづくり、まさにこれからのまちづくりの基本と思いました。

- ◆回答（高橋）：家庭内孤独、妻が作った料理を黙って食べる夫、夫婦別々のTV番組を見ている夫婦、どこにでもある光景です。同感です。

【質問 13】 今年になって集会所にてサロンが開かれるようになりました。元気な女性は進んで参加されますが、男性はどうしても遠慮したいとおっしゃいます。またつきあいを拒否している方もいます。そのような方々に対してサロン以外でどんな対応が考えられるかお知恵をいただけたらと思います。（高齢者団地の安否確認をしています）

- ◆回答（高橋）：光が丘団地で「グランドゴルフ」の会を立ち上げ2年程になりました。ゲートボールと違いグランドゴルフは、普通のゴルフと同じく個人プレーですので自己責任です。玉を打つ感触は、ゴルフと変わらないこと、お金が掛からないで半日遊べ、歩く距離も2キロ程です。（年間1,000円の会費のみ）また東京都のシルバーパスを使つての日帰り小旅行も定期的に行っています。

- ◆回答（平原）：サロンもいろんな形で提供すると、その人に合ったものが出てくるかもしれません。写真同好会・囲碁教室・男性料理教室・パソコンの会等々。

- ◆回答（相澤）：決定的な「特効薬」はないと思われます。調査からあげられた工夫やヒントをいくつか紹介すると、①粘り強く継続的に訪問・声かけする（私たちはあなたを気にしているというメッセージを送り続ける）、②防災・災害時対応、振り込め詐欺、火災報知機設置などの共有しやすい課題をテコにつながりをつくる、③サロンや自治会などの身近な活動を嫌う方もいるのでテーマ型の活動へのつながりも視野に入れる、④徹底した傾聴活動を継続展開する、⑤活動への参加を促す場合は役割を担ってもらう（写真が趣味の方だったら写真撮影を依頼したり、写真で記録を取ってもらうことをお願いしたりなど・・・）、⑥イベントを定期的に行い、お食事無料券や招待券を配る（グループの輪に入れない方が多いので茶話会ではなく映画上映会などが気楽に来れるらしい）、⑦ピアサポーター的な人によるピアなかかわり（同様の状況を経験した人が、同じ目線でサポートしていく）、⑧電話やメールなどを使ったつながりを模索する（将来的な取り組みかもしれません）、などがあげられました。

【質問 14】 悩み：地域住民が良く利用している「スーパー」や「コンビニ」への啓発がすすまない。「企業本部」の許可が必要といわれてしまう。質問：地域住民の声は届きやすいでしょうか。（委託包括職員社会福祉士）

- ◆回答（高橋）：スーパーやコンビニ、どこも本部の許認可が必要なことは、事実です。事の是非は別として、出先の店長に全く権限がないのが現実で

す。一方で、本部には、地域の要望やクレームを受ける専門の部署を置いている会社も増えています。本社の総務部門を訪ね、そこへ地域の要望等文書で記したものを提出相談するのも一つの方法です。

◆回答（廣瀬）：サロンのメニューがどうしても女性向きになっていないか、検証する必要があると思います。私が関係するサロンでは、手芸、折り紙など、女性特有（中には男性も得意としている方もおられるが）のメニューを入れないということにしてサロンを運営しています。“学習会”、“転倒予防体操”などサロン以外に繋ぐ対応は、例えば、町会活動に繋ぐとか、老人会に繋ぐとか・・・町会でもリタイア前のキャリアを活かせる役割がきっとあると思います。ただ、リタイア後、早い時期での手当てが重要だと思いますが、リタイアを目前にした方々には、企業サイドも、行政も大いに関わって欲しいものです。

◆回答（平原）：企業にとって、メリットがあれば受け入れられやすいと思います。まずはチラシを置かせてもらい、次に困ったことがあったら連絡していただくようお願いする、認知症サポーター養成講座の参加を勧めるなど段階を踏んで少しずつ、かつ根気よくアプローチしてみたいかがでしょうか。墨田区では、スーパーが出来る前から企業に働きかけて、高齢者・障害者でも買い物をしやすい店を目指し、スーパー内の通路をシルバーカーでも十分に通れるように提案し、実践できた事例があります。

【質問 15】 墨田区での「緊急通報システム」設置について新宿区では心臓病、独居、年齢など条件がついていますが本人が希望すればだれでも OK なのですか。

◆回答（平原）：墨田区でも条件はあります。区の住民で65歳以上・①慢性疾患があり悪化した場合に自分で電話がかけられなくなる者②独居か高齢者のみの世帯(日中独居を含む)で、利用者負担金は、生活保護受給者または住民税非課税者は0円、住民税課税者は500円、条件外での希望者は2499円となります。

【質問 16】 心の病のかたが増えている。介護保険でかかわってあげることも難しい。保健師さんの訪問をお願いしたいが本人や家族が必要と思ってくれないが周りの住民は心配している。よい対策が思い当たらない。

◆回答（高橋）：心の病の方が増えているのは事実。放置し進行すると悲劇が待っているのが現実。特定されている方なら精神内科（病院により科名は色々）の受診がまず第一歩。

◆回答（平原）：本人・家族の同意がないと、保健センターへの相談につながりにくいですね。主治医やキーパーソンとなりそうな親族から、相談に行くように勧めてもらおうと効果があるかもしれません。

【質問 17】 東京都社協松田さまへ地域福祉コーディネーターはどこの所属になるのか（社

協?)職員として賃金を得られる立場なのか、ボランティア的なのか。

- ◆回答(松田):区市町村社会福祉協議会の職員として、一定の福祉圏域ごとに配置をすることを提案しています。現在、都内では、6区市において、行政の予算措置により地域福祉コーディネーターやコミュニティソーシャルワーカーという名称で配置されています。

【質問 18】 ニート、引きこもり問題

70代、80代の「孤立死」はわかりましたが、中には団地で両親と暮らす独身の息子(娘)もいます。いずれ両親が亡くなれば40代で誰も話し相手のいない「孤立死予備軍」になると思います。これも今、団地で問題になっていませんか。

- ◆回答(高橋):ニート・引きこもりの子を持つ親の悩み、理解できると共にその対象者は、益々増えているのが現実です。社会の変化が急ピッチでそれに対応できない若者……。孤立死の問題を考える時、当然避けて通れない問題です。現在進めている小冊子でも取り上げる予定です。
- ◆回答(平原):社会からの孤立が一番の問題で、本人の生きる意欲も低下していきます。社会との関わりを絶たないように、団地の掃除に参加されている様子を見て必要な支援を考えていくことで予備軍になることを防止できると考えます。

【質問 19】 勉強、研究、学習不足ですので今回はごさいません。次の回にその次には思っております。申し訳ありません。反省いたします。

【質問 20】 住宅公社職員として高齢者へ訪問しているのですが在宅しているのに玄関へ出ない高齢者がいます。どのようにして地域社会、孤立死への関心を持っていただけると思えますか。

- ◆回答(高橋):在宅にも拘らず会ってもらえない、実はこれが普通であって、会ってもらえたらラッキーと考えること、これが団地の現実です。絶対的な解決策は、御座いません。古典的手法ですが、手紙作戦が効果的と言う報告もあります。封書・手書きが条件。パソコンやワープロの文章では、駄目、ぬくもりを感じさせる手書きです。
- ◆回答(平原):よくある話で、皆さん同様に頭を悩ませていらっしゃると思います。訪問時に不在の時は訪問票を入れ、後日に電話を入れて再訪問するなど、しています。またその際は、「あなたのことを気にかけている」というメッセージを伝えるようにしています。いつか通じる日が来ることを信じて……。
- ◆回答(相澤):決定的な「特効薬」はないと思われます。調査からあげられた工夫やヒントをいくつか紹介すると、①粘り強く継続的に訪問・声かけする

(私たちはあなたを気にしているというメッセージを送り続ける)、②防災・災害時対応、振り込め詐欺、火災報知機設置などの共有しやすい課題をテコにつながりをつくる、③サロンや自治会などの身近な活動を嫌う方もいるのでテーマ型の活動へのつながりも視野に入れる、④徹底した傾聴活動を継続展開する、⑤活動への参加を促す場合は役割を担ってもらう(写真が趣味の方だったら写真撮影を依頼したり、写真で記録を取ってもらうことをお願いしたりなど・・・)、⑥イベントを定期的に行い、お食事無料券や招待券を配る(グループの輪に入れない方が多いので茶話会ではなく映画上映会などが気楽に来れるらしい)、⑦ピアサポーター的な人によるピアなかかわり(同様の状況を経験した人が、同じ目線でサポートしていく)、⑧電話やメールなどを使ったつながりを模索する(将来的な取り組みかもしれません)、などがあげられました。

【質問 21】 地域での見守りには、地域住民の意識の改革が必要とのことですが、どのようなやり方でその意識を変えてもらえばよいでしょうか。

◆回答(高橋): 難しいご質問ですね。それぞれの地域で、見守りの必要性をどんなに訴えても多くの人は、自分には関係のない別次元の世界と無関心でしょう。意識を変える有効且つ具体的方法なんてそう簡単に見出されるものではないでしょう。(笑い) それでは、回答になりませんね。地域と一口に言っても、嘗て農村であったり、お屋敷町であったり、戸建て住宅の密集地域であったり……。まずは歴史から学ぶことでしょう。例えば千代田区、戦後麴町区と神田区が昭和22年に合併した区です。旧麴町は旧武士階級の人が多く住み旧神田区は、商人が中心でした。バブル期に大きく両地域も変革を遂げ新住民と入れ替わりましたが今でも個々に根強く伝統は残り、このことを理解した上でないと、意識改革と言っても「机上の空論」として受け入れてもらえません。原住民と新住民、(地域によっては原始人、原住民、住民、新住民、新々住民なんて呼び方分類も)との意識の違いです。団地でなくても、町内にマンションが一棟出現しただけで、対立が起きている地域は、かなりの数です。地域の特性を掴み、それにあったアプローチが必要です。後は行政と地域の協働により関係する協力者の数を少しずつ増やしていくことです。

◆回答(平原): 町会・自治会・サロン・防災訓練などどんなことでもいいのですが、住民に地域づくりの必要性を伝える機会を逃さず、地域づくりの必要性と地域を守るのは住民であると伝えていくことを続けています。

【質問 22】 1人死はどのようなのでしょうか。入院しての死を望まない場合、1人で死ぬという選択は許されないのだろうか。

◆回答(高橋): 孤独死・孤立死の問題を、法律的にどう捉えるか、人間の生き方

の問題ですね。誰にも看とめられず「死」を迎える孤独死、誰にも起こり得ることです。例えば朝起きてこないで寝室をのぞいたら冷たくなっていた……。一方、孤立死は息を引き取ってから少なくとも1日から1週間以上、誰にも気づかれずに死を迎えていた、この違いです。人間の尊厳、社会的損出といった別次元の問題もあり、お互い考えて行くべきことでしょう。

- ◆回答（平原）：自死の事か在宅死の事なのか不明ですが、一人で死ぬ結果となったとして、周囲の人に悔いを残さない事が望ましいと思います。自分たちの地域から孤立死が出たということは、心理的にも大きい澱が残ります。関わりがあっても天寿を全うし、在宅死することはあると思います。

【質問 23】自治会活動、サロン活動をしているが個人情報があつたかわからない。本人から助けを求められ急な手助け（救急車を呼ぶ）をしたが家族への連絡先がわからない、など。

- ◆回答（高橋）：個人情報保護法の解釈が誤解され、自治会名簿の作成が禁止されているかの誤解があります。基本的に法の適用は、5000人以上が対象であり、それ以下については、法の精神に則りさえすれば可なり弾力的に捉えられます。是非研究してください。と同時に救急車を呼ばれたことは正解ですが、より正しくは警察・110番です。110番しますと、まず「事件ですか、事故ですか」と言った声が跳ね返ってきます。その時、落ち着いて「安否確認です」とお答えください。「どんな状況ですか。」落ち着いて答えてください。後は、警察から消防へ緊急手配され救急車とパトカーが現場へ急行され必要な処置が施されます。

- ◆回答（廣瀬）：個人情報保護法、個人情報保護条令をクリアする方法があります。本人同意で個人情報にOKを貰って、名簿化することは出来ます。私のサロンではOKを下された方（殆ど）の名簿を作成し、OKの方々は全員、持っています。その名簿を活用して相互扶助が成り立っています。「おたがいさま」の関係に民生委員がどう絡んでいくのか……コーディネートが出来るのか。

- ◆回答（平原）：民生委員さんはふれあい訪問を、包括支援センターは実態把握をするので自宅を訪問し連絡先を把握していることがあります。また、警察が家族情報を持っていることもありました。関係機関と連携していくといいと思います。

【質問 24】住民意識を高めるために最も有効なことはなんですか。

- ◆回答（高橋）：回答21を参照。同時に共通の必要性を共有すること。現在進

めている小冊子の発行内容もそうした視点で捉えています。刊行後ご希望でしたらお送りします。

◆回答（廣瀬）：地域の課題を共有することが必要では。その課題解決に向けて、それぞれが関われることで、地域（社会）貢献をしていこうという意識をどう醸成するかも問われるのでは。その為には、やはり、キーマンとなる地域コーディネーターの存在は大きいと思います。

◆回答（平原）：他人事ではなく、自分の事として捉えてもらうことです。

【質問 25】 包括的取り組みが進んできていることは大変良い状態ですが、「孤立」ということはそれを受け入れない方々が「孤立死」という結果となるのでは。その具体的対策は。

◆回答（高橋）：ご指摘の通りです。孤立死を完全に無くすことは無理でも、減らすことは可能です。孤立死を自ら強く望む人は少数で、多くは、あきらめ・失望・投げやり・自棄等々が原因と考えられます。人間の尊厳や社会に及ぼす諸々の悪影響を説くことにより、人間一人ではないことを理解してもらうことから始めるべきでしょう。

◆回答（平原）：社会福祉協議会の話にもありましたが、気にかけていることを繰り返し伝えることで心の窓が少しずつ開けてくることがあります。時間と根気が必要で、短期間での効果は出ないと思いますが、関わりが困難な方は、それだけ困難な人生を歩まれてきたのだろうと思い、支援を行っています。

【質問 26】 サロン活動は自治会など（集合団地の場合）が活動準備をすることになると思いますがその自治会自体が高齢化しているという現実に対してどういう対応を考えていらっしゃるのか。

◆回答（高橋）：常に規約の見直しを行い（毎年に近い）、誰でもが役員になれる仕組み、会費に頼らない資金の捻出、目に見える形での活動（特に防災問題）広報等々を通して新規会員の獲得と若手の育成。

◆回答（廣瀬）：高島平地区民協の民生委員さんたちは、地域課題の解決にはサロンという考えが強く、高島平地域にはサロンが他の地域に比べて特に多いのです。自治会が主になっての立ち上げばかりでは無く、民生委員自身が立ち上げて運営しているものも数多くあります。地域の課題は地域で・・・という意識が強いと思われま。民生委員の定年は75歳ですので、それまでに立ち上げ、次の世代にどう繋げていくかが課題でもあります。それから、高齢化を嘆く必要は無いと思います。元気高齢者をいつまでもお元気にというスローガンで、高齢者が高齢者を支えるシステム作りが必須と考えます。民

生委員の果たす役割は自ずと見えてきます。

- ◆回答（平原）：高齢者だから運営ができないわけではなく、70代後半・80代の方でも活躍されています。今後、新しく立ち上げるところは、社会福祉協議会や行政、地域包括支援センターなどが軌道に乗るまで支援を行い、徐々に自主化を図っていくのも一案かと思います。

【質問 27】 孤立死防止には幅のある世代間の交流、コミュニティの構築がぜひとも必要である。が、しかし都住宅局の画一的な根本的入居基準制度を見直さなければ抜本的な対策は防げないと確信するがどう思われますか。

（当時者団地の自治会長よりの質問）

* 報告者やシンポジウムが東京都住宅局の施策に反映されることを望む。

- ◆回答（高橋）：国の住宅政策そのものの転換期。我が国人口は、すでに10年前に減少に転じすでにピークより200万人減少。人口1億を割る時代も視野に入れるべき時期に到来。東京都も例外ではなく、2020年奇しくもオリンピック開催の年をピークとして減少に転じる見込み。従来の発想を転換し、新たな供給を考えるのではなく既存建物の見直しの時期。近い将来取り壊し用途変更すべきもの、逆に大規模修繕により延命をはかるもの等供給政策から管理維持政策に転換すべきである。そうした視点で、現行入居基準（所得基準）も当然見直すべきで、見直しに当たっては、都営・供給公社・UR歩調を合わせることが望ましい。尚見直しに当たっては、所得水準の低い若者への配慮も絶対要件。（高齢者の住み家としないため）
- ◆回答（平原）：同感です。収入制限がある以上、収入を得るようになった子世代は別居せざるを得ないのが現状です。都民に等しくサービスを供給する観点から、1家族が永住的に入居を続けるのを防ぐという意味もあるようですが、現状からかけ離れた仕組みだと思えます。家族で住める仕組みを考えるべきだと思えます。

【質問 28】 地域の見守り活動について住民同士の見守り活動をよりよいものするために何が重要だと思いますか。また認知症の人の発見について病識のない方が多いと思いますが。

- ◆回答（高橋）：今は関係なくとも、近い将来「自分自身の問題」だと捉えていただくことです。認知症の知識普及にあらゆる機会を捉え啓発することで、かなり知識量は増大しています。
- ◆回答（廣瀬）：それは一言、普段からの関係づくり。そして、今、各地で行われている「認知症サポーター養成講座」などで、住民を巻き込んだ学習会の大切さを感じます。相互に支え合える社会づくりの学習の構築

を望みます。

- ◆回答（平原）：原則、見守られたい人が対象となるべきですが、命を救うためのおせっかいは必要と考えています。また、認知症の方は拒否も強いことがあります。そこは近隣の顔なじみの強さを活用していくべきだと思います。

【質問 29】 やっと動き出した感じですが、後継者の育成は大切だと感じています。

- ◆回答（高橋）：全く同感です。

【質問 30】 地域福祉活動について人材育成が課題となっています。どのような人材育成、または人材育成の支援を実施されていますか。

- ◆回答（高橋）：一口に人材育成と言っても、行政と民間では違い、民間でも福祉をビジネスとする企業や団体と地域のボランティア団体のような町会・自治会では大きな差があります。ご質問のバックグラウンドが判りませんので深くは申し上げられませんが、町会・自治会而言えば、自分や家族の問題としてまず関心を持ってもらうことが始まりです。その上で福祉のどんな分野でもよいので、「一日体験」してもらう、そんな機会を積み重ねつつ人材育成に努めるのも一つでしょう。

- ◆回答（廣瀬）：私自身もPTA経験者です。地域活動の登竜門がPTAだと強く思っています。今、板橋ではボランティア活動の中心になっている方々の多くが、PTA経験者です。様々なボランティア活動を展開し、子どもからお年寄りまでのボランティア活動を続けています。地域人材を先ず、小・中学校のPTAに繋げ、PTA卒業後、速やかに地域活動に繋ぐ・・・この循環を作ることが、人材育成の鍵でしょう。多くの先輩、後輩が様々なボランティア活動を展開しています。活動の意義や意識を共有する学習が大切と思います。

【質問 31】 孤立死とは直接関係ないと思いますが、高齢で一人ぐらしの女性（たまに男性も）の高い割合で自宅に他人に入られた、見張られているといった被害妄想を抱えておられるかたが見受けられます。ご本人はお元気に地域活動にも参加されていますがこうした訴えをされる方が近年多くなっているように思います。このような事例のケアの方法等や具体的な成功例がありましたらご教示ください。

- ◆回答（高橋）：認知症の初期症状と考えるべきでしょう。男女を問わず最近増えているのも事実です。プライドの高い人ほどこうした傾向が見られます。男性で言えば管理職でも比較的地位の高いポストにおら

れた方、女性で言えば元教職の立場におられた方等々。解決法は、何と言っても一刻も早く専門医の診断を仰ぐことですが、本人を納得させ誰が病院に連れて行くかです。やはり身内か本人が最も信頼を置く友人でしょう。初期段階の認知症は、完治の確立が大きいことを納得させ手遅れにならないように努める事ではないでしょうか。「おせっかい」と言われても良いのです。

- ◆回答（平原）：被害妄想のある方は一見元気に見えても、認知症の初期だったり精神疾患のある方もいます。根底には不安がある為、訪問を二人体制で行う・室内に上がりず玄関で話をする・本人からの要望を待ってアプローチするなどいろいろ工夫しています。慎重に対応する必要がありますが、家族などに症状をお伝えして、専門病院(精神疾患)の受診を勧めることもあります。

【質問 32】 サロン、講座、イベント、OB 会等に行っても出てくるのは同じ顔ばかり。皆様はいかがですか。でてこない方へのアプローチ等も聞かせていただければ幸いです。

- ◆回答（高橋）：同感です。同じ顔であれば、多少突っ込んだ話も出来るでしょう。思いきって一度話し合ってみたら。「友達を一人だけ連れてくる」運動を。たまにはコーヒーや紅茶にケーキをつけて、まずは趣向を変えそれを伝える方法に工夫を凝らすことです。
- ◆回答（平原）：本当は行ってみたいけど、常連ばかりで気が引けると思っている人もいます。出てきてほしい方と信頼関係を築き、一緒に行きましょうと寄り添ってあげると、安心感から前向きな返事が聞かれることもあります。

【質問 33】 団地の立置条件にもよりますが、団地に身内（親など）がいる場合空き室・空き家に入居する若い人、家族に手厚く補助する。高齢者の見守り・ケアリングコミュニティに参加することができる人の転入してもらえると、団地の若がりができるのではないのでしょうか。事例はあるのでしょうか。

- ◆回答（高橋）：残念ながら具体的事例は知りませんが、例えば高齢者と若い学生さんが一緒に住む所謂「シェアハウス」の導入等の研究は、光が丘団地でもURを交えて進められております。今後、住宅政策は好むと好まざるに関わらず大きく変革を余儀なくされています。ご提案のアイデアも有効手段の一つです。関係機関との交流を強化、トップダウンで進めていただければと思います。

【質問 34】 孤立死を防ぐにはどうしたらよいか。1人になる過程へのタイプと介入のタイミングは。

◆回答（高橋）：絶対的な解決策・防止策は御座いません。あるのは少しでも減らすための努力です。人間一人一人の人生観・生き様・心の問題だからです。そうした基本的な事柄を十二分に理解した上で、身の回りに疑わしき人がいた時、どう近づくか声をかけるかケースバイケースでしかございません。

◆回答（平原）：支援が必要な方のアセスメントを行うと、退職をきっかけに自宅からでなくなったり、病気や障害で外出困難になる、伴侶や兄弟姉妹との死別などがきっかけになるようです。

団地では一斉の掃除の際に異変に気づいて声をかけることをきっかけに支援や見守りを開始したり、掃除にも出てこない方を個別訪問する指標とされているところが多くあります。

【質問 35】 行政の役割、特に地域包括支援センターとのかかわりはどのようにすすめられているのか。（練馬区の高橋さま）

◆回答（高橋）：何と言ってもお互い「顔の見える関係」を日頃から気づいて置くことでしょう。お互い携帯電話でどんな時でも連絡し合える関係です。行政と地域は一体です。

【質問 36】 地域福祉コーディネーターはどのように育成されるのか。地域の資源（人材の発掘等）をきちんと認識されていないと役割が不十分になるのでは。

◆回答（高橋）：前35問の回答とも関連しますが、コーディネーターが地域で仕事をしやすくするには、まずは地域の協力そして協働です。本人が生きがいを持って仕事をする、その事が本人自身の成長となり結果的に育成ともなるのです。

◆回答（廣瀬）：民生委員と地域包括支援センターとの連携は、非常に良くなりました。民生委員と同じ名簿を地域包括支援センターが共有出来るまでになり、課題解決に向けた協働体制が取れるようになっていきます。地域包括支援センターとの関わり方が良くなったこともあり、民生委員としての重荷が少し軽くなったように感じます。一人で抱え込まずに、繋ぐ術を持っているという安心感は、民生委員にとっては、地域福祉の推進に打ち込めるというものです。大きな力で支えて貰っています。

◆回答（松田）：ご指摘のとおり、活動の前提として、地域の社会資源のアセスメント、ソーシャルワークのスキルをはじめとした専門性が不可欠であると考え、東京では、平成23年度より、東京都社会福祉協議会において区市町村社会福祉協議会の地域福祉コーディネーター養成研修を実施しています。

【質問 37】 個人情報の取り扱いはどうなっているのか。

- ◆回答（高橋）：個人情報保護法については、一部行政官ですら誤解したり敢えて隠ぺいしようとしたり、都合が悪くなると個人情報だからと言って逃れたり困ったものです。「一人一人の命が大事か、情報が大事か、」肝に銘じべきです。ご自身で法の全文をもう一度読み直して下されば如何に誤解が多いかお判りいただけます。その上で具体的に解明したいことがあれば、東京都の専門部局にお尋ねになることをお勧めします。

【質問 38】 介護サービスの利用をすすめてもかたくなに拒否し続けるかたにどのように対処されているのか。見守りを継続されているのか伺いたい。

- ◆回答（高橋）：ご指摘のような方結構多いのです。これまでも回答の中で触れましたが「プライド」が多くの場合関係しており、こうしたケースでは奨めれば奨めるほど意固地になる傾向があります。残念ですが、こうしたケースでは、本人に悟られないよう見守りを続け、本人が弱気になってくるのを待ち介護サービスの利用を奨めるのも一つの選択肢でしょう。
- ◆回答（平原）：サービスが必要な状況なのに拒否されているのは、ある意味セルフネグレクトとも言えます。定期的な見守りを行い、何かあった時が介入のチャンスになるので、関わりを欠かさないようにすることが大切だと思います。
- ◆回答（相澤）：決定的な「特効薬」はないと思われます。調査からあげられた工夫やヒントをいくつか紹介すると、①粘り強く継続的に訪問・声かけする（私たちはあなたを気にしているというメッセージを送り続ける）、②防災・災害時対応、振り込め詐欺、火災報知機設置などの共有しやすい課題をテコにつながりをつくる、③サロンや自治会などの身近な活動を嫌う方もいるのでテーマ型の活動へのつながりも視野に入れる、④徹底した傾聴活動を継続展開する、⑤活動への参加を促す場合は役割を担ってもらう（写真が趣味の方だったら写真撮影を依頼したり、写真で記録を取ってもらうことをお願いしたりなど・・・）、⑥イベントを定期的に行い、お食事無料券や招待券を配る（グループの輪に入れられない方が多いので茶話会ではなく映画上映会などが気楽に来れるらしい）、⑦ピアサポーター的な人によるピアなかわり（同様の状況を経験した人が、同じ目線でサポートしていく）、⑧電話やメールなどを使ったつながりを模索する（将来的な取り組みかもしれません）、などがあげられました。

【質問 39】 困ったときの相談窓口はどこなのか。いまいちわからない。若いころから何か相談できるところがあればと思う方もいる。まず、受け止めてくれるところ（簡単な名称のほうがいい）があれば。解決しなくても相談したいこともある。

- ◆回答（高橋）：ご指摘の点、理解できますが相談内容により窓口が異なり簡単ではございません。私ども光が丘団地では、こうした悩みに「きずなサロン」を毎週水曜日常設し、相談員をおいて相談を受けた内容により、それぞれ専門分野の方もしくは機関に取り次ぎ・紹介しております。

【質問 40】 おせっかいを拒否するかたへの支援（接し方）方法を教えてほしい。

- ◆回答（高橋）：「ほっといてくれ。余計なおせっかいをしないでくれ」そんな人結構います。どこにでも。でも本当は、寂しいんですよ。プライドが邪魔して本音を言えないんです。あせらず時間を掛けて、少しずつ接して行くんです。ピンポン鳴らしてドア一越しに、次いで自筆の手紙で（字が下手の方が効果的）手短に（長い文章は捨てられます）階段を一步一步上がる気持ちで。
- ◆回答（平原）：しつこいと思われて関係を断たれてしまったら元も子もありません。時々伺ってもいいですか？電話をしてもいいですか？と聞いて了解が取れば訪問や電話をします。それも拒否する方は、困ったことがあればいつでも相談に乗りますというメッセージを伝え、ゆるやかな見守りを続けてはいかががでしょうか。
- ◆回答（相澤）：決定的な「特効薬」はないと思われます。調査からあげられた工夫やヒントをいくつか紹介すると、①粘り強く継続的に訪問・声かけする（私たちはあなたを気にしているというメッセージを送り続ける）、②防災・災害時対応、振り込め詐欺、火災報知機設置などの共有しやすい課題をテコにつながりをつくる、③サロンや自治会などの身近な活動を嫌う方もいるのでテーマ型の活動へのつながりも視野に入れる、④徹底した傾聴活動を継続展開する、⑤活動への参加を促す場合は役割を担ってもらう（写真が趣味の方だったら写真撮影を依頼したり、写真で記録を取ってもらうことをお願いしたりなど・・・）、⑥イベントを定期的に行い、お食事無料券や招待券を配る（グループの輪に入れない方が多いので茶話会ではなく映画上映会などが気楽に来れるらしい）、⑦ピアサポーター的な人によるピアなかわり（同様の状況を経験した人が、同じ目線でサポートしていく）、⑧電話やメールなどを使ったつながりを模索する（将来的な取り組みかもしれません）、などがあげられました。

【質問 41】 周りとのかわりを拒絶する人へのアプローチで工夫していること、うまくいった例、どのようにすれば輪にはいってもらえるか。

- ◆回答（高橋）：結局は、時間との闘いであり且つ自分との闘いでもあります。これまでに述べてきた事例も参考にしてください。
- ◆回答（平原）：40 と同様に、ゆるやかな見守りを続け、不調時や入院などをきっか

けに働きかけを始めます。時間がかかりますが、自分の居場所があると思ってもらえると、その後の受け入れはスムーズになるようです。

- ◆回答(相澤)：決定的な「特効薬」はないと思われます。調査からあげられた工夫やヒントをいくつか紹介すると、①粘り強く継続的に訪問・声かけする(私たちはあなたを気にしているというメッセージを送り続ける)、②防災・災害時対応、振り込め詐欺、火災報知機設置などの共有しやすい課題をテコにつながりをつくる、③サロンや自治会などの身近な活動を嫌う方もいるのでテーマ型の活動へのつながりも視野に入れる、④徹底した傾聴活動を継続展開する、⑤活動への参加を促す場合は役割を担ってもらう(写真が趣味の方だったら写真撮影を依頼したり、写真で記録を取ってもらうことをお願いしたりなど・・・)、⑥イベントを定期的に行い、お食事無料券や招待券を配る(グループの輪に入れない方が多いので茶話会ではなく映画上映会などが気楽に来れるらしい)、⑦ピアサポーター的な人によるピアなかかわり(同様の状況を経験した人が、同じ目線でサポートしていく)、⑧電話やメールなどを使ったつながりを模索する(将来的な取り組みかもしれません)、などがあげられました。

【質問 42】 うめわか高齢者支援センターの発表内容は大変よかったです但資料(パワーポイント)のデータがほしい。

【質問 43】 廣瀬さまへ

70 歳以上の訪問調査について。一人 188 名の訪問を毎年行うことは民生委員にとって大きな負担となっていると思われます。調査方法、期間、課題等あれば教えてください。自分の市でも戸別訪問は行っておりますが全戸ではなく対象者 800 名程度です。

- ◆回答(廣瀬)：実は 285 名を受け持っています。例年、3 月の一ヶ月間を掛けて個別訪問します。区によって違っていると聞いていますが、板橋区では 70 歳以上の方々の訪問調査です。住民票では見えてこない生活形態が垣間見えます。世帯状況(ひとり暮らしかどうかなど)、本人の状況(元気が、こもりがちかなど)、見守り対象(ひん回に必要かどうかなど)などを聞き取り調査し、板橋区が集計して民生委員に返されます。この訪問調査は民生委員にとって大きな負担にはなっていますが、一方では、高齢者の課題が如実に分かる現場でもあります。また、近年、初めて 70 歳になられる方々は、訪問してもドアを開けてくださらない、チャイムを鳴らしても出て来られない(在宅であるのに)など、自己防衛せざるを得ない高齢者の現状であろうと思える社会状況を感じ取ります。高齢者の不安、頼る術をだんだんそぎ落とされて行く現実も垣間見える彼らに、年に一回の訪問調査は必須であろうと思われます。初年度は開けて下

さらなくても、次年度はお話出来るという嬉しさもあるのです。
大きな負担だから止めるということではないと感じています。

【質問 44】 都市部にはないと思いますが買い物支援を必要とする地域への取り組み等について。

- ◆回答（高橋）：練馬区内でも買い物支援ボランティア団体は活動しておりますし、生協の活動もそうですし、都内23区でも増えています。大手スーパーでも配達サービスをしており更には、二食ないし三食カロリー計算をした上での配膳サービス等々ありこの業界も競争激化のようです。
- ◆回答（平原）：墨田区では、社会福祉協議会が行っているハートライン 21 事業とミニサポート事業があります。区民による有償ボランティアで買い物代行などの家事支援を行っています。団地の自治会によっては、見守りサポート隊が買い物をするところもあります。

【質問 45】 サロンの運営について：サロンへの参加に消極的な人（単身男性など）への参加を促す工夫はありますか。

- ◆回答（高橋）：サロンの運営で、気配りが必要な事は特定の人に主導権を握らせない事です。男女を問わず、ボスは不要。また男性でも本当に寂しくなると恐る恐る訪ねて来るものです。そんな時、聞き上手になり彼の得意分野を可能な限り早く引く出すことです。
- ◆回答（相澤）：決定的な「特効薬」はないと思われます。調査からあげられた工夫やヒントをいくつか紹介すると、①粘り強く継続的に訪問・声かけする（私たちはあなたを気にしているというメッセージを送り続ける）、②防災・災害時対応、振り込め詐欺、火災報知機設置などの共有しやすい課題をテコにつながりをつくる、③サロンや自治会などの身近な活動を嫌う方もいるのでテーマ型の活動へのつながりも視野に入れる、④徹底した傾聴活動を継続展開する、⑤活動への参加を促す場合は役割を担ってもらう（写真が趣味の方だったら写真撮影を依頼したり、写真で記録を取ってもらうことをお願いしたりなど・・・）、⑥イベントを定期的に行い、お食事無料券や招待券を配る（グループの輪に入れない方が多いので茶話会ではなく映画上映会などが気楽に来れるらしい）、⑦ピアサポーター的な人によるピアなかわり（同様の状況を経験した人が、同じ目線でサポートしていく）、⑧電話やメールなどを使ったつながりを模索する（将来的な取り組みかもしれません）、などがあげられました。

【質問 46】 見守りについて：さまざまな組織が行う見守り（定期訪問）の情報集約や情報交換について何か取り組んでいますか。

- ◆回答（高橋）：見守りには色々のパターンがあります。行政が民に委託し報告を求めるスタイルもあれば民が当事者との契約行為で行うもの、民生委員

が職務として行うもの等々。当然報告内容も情報の質や量も異なります。ケースバイケースで情報を共有しつつ対処する場合があります。

- ◆回答（平原）：うめわか地域では、見守りネットワーク会議を開催し、各組織の取り組みや工夫されていることなどの情報交換を行っています。

【質問 47】 光が丘団地、高島平団地担当の包括支援センターの取り組みや協力体制を教えてください。また連合会長、民生委員から地域包括支援センターに期待することは何か教えていただければと思います。

- ◆回答（高橋）：常にお互い日頃から「顔の見える関係」にあることです。それさえしっかり出来ていればいかなる問題にも対処できます。
- ◆回答（廣瀬）：前の質問でも記述しましたが、高島平地域は非常に良い連携が取れています。電話一本で連携が取れる、これが一番の大きな後ろ楯です。民生委員の相談業務は介護に関する相談が多いこともあるのですが、心強い限りです。この連携がいつまでも続きますように。

【質問 48】 平原さん、廣瀬さん団地内を担当する民生委員と地域包括センターとの連携はつくれているのですが、そこにケアマネを含めた連携づくりが不十分は現状ですがどうつなげていくのがよいでしょうか。また団地内にはたくさんの事業所のたくさんのケアマネが介入します。ケアマネ個々と民生委員個々をつなぐための工夫はありますか。

- ◆回答（廣瀬）：当高島平地域では、地域包括が年間2回程度の研修会を企画して下さり、その中で事業所のケアマネさんたちとの情報交換など様々な研修を組み入れてもらっています。また、サロンにも、地域包括の業務内容などを高齢者に講話してもらえるなど、連携が取れています。ただ、高齢者が介護保険に移行しても、民生委員には何の知らせも無いのですが、ケアマネとの連携があれば、個々の高齢者の現状を把握できるので、相互の関係作りでは、地域包括が介入しての事業所との連携も必須であると考えます。
- ◆回答（平原）：うめわか高齢者支援総合センターでは、民生委員交流会や地域包括ケア会議で民生委員とケアマネジャーの顔合わせを行い、連携しやすい場を作っています。

【質問 49】 民間事業者は「見守り」のステークホルダーになりうると思いますか（実際に弁当宅配サービス業者からの連絡で居室内での居住者が倒れているのを発見→救出ということがありました）

- ◆回答（高橋）：当然なり得ます。ただ民間事業者が、見守りを業務の一環として日

常的に行うのであれば事前に行政サイドとの細かい詰めをすべきと考えます。

- ◆回答（平原）：墨田区が契約している配食事業は、配達時に原則手渡しとし、安否確認を兼ねています。不在時には関係機関に連絡が入り、高齢者支援総合センター職員が周囲への聞き取りを行い必要時は訪問しています。民間事業の活用は、どう活用していくかが鍵になると思います。

【質問 50】 住宅運営をおこなっていく者として行っていくべき活動は何か。

- ◆回答（高橋）：高齢者の一人暮らしまたは夫婦二人きり世帯の場合、家賃が口座自動引き落としのケースでは、細心の注意が必要。預金残高がある限り名義人の後継者が正規の手続きをしない限りいつまでも自動的に家賃は引き落とされ結果として異変に気づかず死亡していたケース。共有部分である集会所。適性にひんぱんに利用されているか。利用されず宝の持ち疲れ、不良資産化していないかのチェック。集会所は、居住者に煩雑に利用されれば情報源。もし利用率が低ければ高齢者対策の視点で見直しを。

【質問 51】 高齢社会を向えるにあたって地域包括支援センターの役割が重要な要素と考えます。地域の器として支援センターが地域ネットワーク構築のためのコーディネーターする役割が大事と考えます。地域の中で銀行、新聞店、民生委員、コンビニ、商店街、警察、消防等々あらゆる機関を結びつけることが大事であると思います。厚労省は中学校区に地域包括支援センター設置を考えているようですがこのことについて見解を。

- ◆回答（高橋）：同感です。今光が丘で、小冊子の発行を準備中ですが、編集委員のメンバーは以下の方々です。お話の通り連携は始まっています。

メンバー 地域住民（発行責任者）光が丘地区連合協議会	9名
光が丘民生・児童委員長（上記地域住民の中に別途2名）	1名
練馬区高齢福祉対策課	1名
練馬区光が丘総合福祉事務所長	2名
練馬区福祉事業団（高齢者相談センター）	2名
練馬区社会福祉協議会	1名
警視庁光が丘警察署	1名
東京消防庁光が丘消防署	1名

- ◆回答（平原）：地域に根差した支援を考えると、広範囲での地域設定は難しくなると思います。現在の中学校区への設置が妥当ではないでしょうか。

【質問 52】 墨田区の包括支援センターの方への質問です。地域ケア会議の内容、どのよう

なメンバーで開催されているのでしょうか。

- ◆回答（平原）：包括支援センター・みまもり相談室職員・民生委員・居宅介護支援事業所のケアマネジャー・医師・歯科医師・通所介護事業所相談員・高齢者福祉課職員で行いました。内容により、警察・消防・病院のMSW・薬剤師・社会福祉協議会に参加を代簿いかけることもあります。

【質問 53】 墨田区へ 声掛けサポート隊の活動内容を教えてください。

- ◆回答（平原）：みまもり対象者の選定基準は各自治会によって異なります。（年齢の決まりなし・65歳以上・70歳以上など）安否確認の戸別訪問や、小さい頼まれごとの対応（電球の取り換えから買い物代行もある）、相談対応、回覧版が一定期間までに戻らない場合の連絡・対応。緊急通報システム設置の推奨を活動として行っていると思います。

【質問 54】 介護保険や個人情報保護の規制がある中で、見守り支援機器のインフラ整備についてみなさまのご所見をお伺いします。「時期」「価格帯」「求められる機能」など添えていただけると辛甚です。

- ◆回答（高橋）：見守り機器の開発が急ピッチで進められ、毎年秋に開催される展示会は大変関係者の間でも評判のようです。ここ光が丘にもいくつかのアプローチがありその都度お話は何っています。しかし未だ開発途上と言うのが私自身の感想です。
- ◆回答（平原）：墨田区の緊急通報システムは、プラス千円で安否確認センサーを取り付けられ、一定時間の動きがないとセンサーからの通報があります。個人で負担できる金額は、安心料としては千円以内、時間は24時間、求められる機能としては緊急時の相談や救急要請、センサーによる安否確認などでしょうか。